



科学技術力を支える「BOP (Base of Pyramid)」の重要性

The importance of the BOP (Base of Pyramid) which supports Japan's capability of science and technology



大林秀仁 Hidehito OBAYASHI

株式会社日立ハイテクノロジーズ 執行役社長

昨年末、ノーベル化学賞授賞式の報道に触れて感動したことは記憶に新しい。授賞式に前後して行われた一連の華やかな行事での根岸英一・パデュー大学特別教授と鈴木章・北海道大学名誉教授の晴々しい表情は、日本人として誠に誇らしく、日本の化学界に携わる皆様にも心からお喜びを申し上げたい。これまで、ノーベル賞の榮譽に輝いた日本人は17名、うち7名の方が化学賞を受賞され、しかも6名の方が2000年以降の受賞である。改めて近年の日本の化学界の底力を感じずにはいられない。

ノーベル賞の話題に前後して、「2009年 OECD 生徒の学習到達度調査結果」が公表された。「科学的リテラシー」に関して、数ある国々の中で、日本は前回（2006年）と今回ともに5位である。

また、「国際化学オリンピック」には、毎年4名の高校生を代表として送り続けているが、日本は2010年に金メダル2個・銀メダル2個と大健闘。化学オリンピック国内大会の参加者も年々増加し、最近では3,000人を数えていると聞く。日本化学会ははじめ関係者の方々の地道な活動に敬意を表したい。

昨年はビジネスの世界で「BOP (Base of Pyramid)」という言葉が流行した。化学界においてもノーベル賞級の研究成果を上げた方々を頂点として、数えきれない研究者や可能性を秘めた学生に至る層（「BOP」）が我が国の化学の発展を支えている。

しかし、日本の将来は科学技術創造立国をめざす以外に道はないことを考えると、上記のような楽観論だけでは済まされない。近年、日本経済の低迷と併せ、世界の中での日本の研究力の優位性が確実に低下していることも事実である。研究競争力を高めるためには、教育体系の革新など種々の施策が必要であるが、まず、第一に「BOP」の拡大を進める必要がある。

日本の若者の理科離れが言われて久しい。小学校5年生くらいの頃の経験や感動がその人の歩む人生に大きな影響を与えと言われる。この時期に受験勉強に没頭させるだけでなく、理科教育への導きや出会いの大切さを経験させることが重要である。子供たちが自然科学に興味を持つきっかけを提供できればという願いから、微力ながら弊社では、卓上顕微鏡の小学校への貸し出しやイベント開催を通じて理科教育の支援を行っている。同様の取り組みを社会全体で継続することによって、将来、世界に通用する一流の研究者をめざす若者が次々と出てくることを期待している。

同時に、新しい発明・発見をトリガーにしたイノベーションを起こしていくことがことのほか必要である。イノベーションによる新産業の創出が我が国の継続的な発展を可能にする。長期的な視点から我が国の科学技術における「BOP」の底上げに取り組むことと、産・学・官それぞれがイノベーション創出を奨励していく仕掛けや制度づくりが急がれる。

KS 磁石鋼を発明した本多光太郎博士には「徹科学 則技入神」という^{きこう}揮毫がある。

英訳版は 259 ページをご参照下さい。English version, see pp 259.

© 2011 The Chemical Society of Japan